

学校だより たぐち

佐久市立田口小学校 平成28年 11月9号

運動会終わる



天候には、本当に悩まされた今年の運動会も無事に終わることが出来ました。行事の度に繰り返し述べているようですが、これも本当に、PTAの皆さんをはじめとして、多くの皆さんのお支えあるからこそできることだと、今年も強く感じました。テント張り、万国旗張り、グラウンドの整備、石拾い、陣地旗の竹切りから設置まで、本当に様々な面でお力をいただき行える行事だと思います。

練習の期間は、雨模様もあり十分な練習を積むことが出来ない種目や学年があったかと思えます。



しかし、どの競技も子供たちの精一杯の姿が表現されていたと思います。このこともまた運動会の度に繰り返し述べさせていただいていることですが、やはり運動会の練習を積み重ねることは、子供たちの成長にとって欠くことの出来ない事だと思えました。また、行事は、その取り組む過程の中に大きな意味や意義があるのだと改めて思いを深くしました。

本番でどんなに成果が上がっても、その過程の中での練習への取り組む姿に全てが表出していると思えました。本校の運動会は、最後に地域の皆さんや保護者の皆さんで最後にダンスを踊ります。しかもとてもたくさんの方が輪に加わっていただけます。これこそ田口小が、地域の学校であるという証を如実に物語るものであると思えます。

田口峠マラソン 終わる

登り坂のマラソン。箱根駅伝のコースにあるまるで箱根の登りのようだと始めての時に思いました。それを競

争相手に、昨年の自分に、今の自分に負けまいとして、タイムを出そうとして、ゴールを求めて必死に踏ん張り走りきる子供たち。毎年、毎年、すごいなと思えます。今年も10月14日(金)に行うことが出来ました。天候に恵まれてそれほど暑くなくマラソン日よりでした。

1・2年生は、雨川ダム

湖月荘跡地への児童だけのウォークラリーでした。2年生がリーダーとなり、一年生を連れて行きます。誰がリーダーになり、副班長になるかなど2年生にとっては、様々に配慮し気を遣い、リードしていかななくてはならないラリーです。準備



する中で私たちは子供たちの自主性の伸長を図るために、いろいろな面で指導します。そうした活動を通して、お兄さんお姉さんとしての「自覚を促す」ことをねらいます。そうした活動を通して相応しい態度を身につけ、自分自身や自分のクラスに自信を持ってほしいと考えます。

マラソンでは、全ての子供たちが走る事が得意なわけではありません。当然のことです。苦手で嫌だなど思う児童も自分の走り方とペースで走ります。そんな中で次のような事を感じました。

「ひとりになれる ひとつになれる」

この言葉は、岩村田小学校が育てたい子供の姿として掲げているものだと思っています。(違っていたらすみません)、先日、そのことを考えさせる児童の姿に出くわしました。

田口峠マラソンは、保護者の方 40 名を越える皆さんがボランティアとして、お力を貸していただくことで実施できている行事でもあります。

そんな中で、今年ゴールでこんな声が聞こえてきたという話しをお聞きました。それは、

「ごめんね。約束したのに。(一緒にゴールできなくて)」

「約束やぶってごめんね。(先にゴールもしくは、後でゴールして)」

「約束したのに、守れなくてごめんね (ゴール一緒に出来なくて・・・)」



という声です。ゴールした後であちらこちらから聞こえたというのです。

() 中の言葉は、私が勝手に補ったものです。もちろん、もっと粘って粘って、がんばれば一緒にゴールできたという意味を込めて言っている児童もいるでしょう。しかし、「一緒にゴールする」ことが、マラソンの目的であり、自分らしく、自分の力の限りを尽くして走りきることが目的になっていないのではと思うのは私だけでしょうか。

これで

は、「田口峠マラソン」が持つ「この行事でしか得られない価値」の大事な事が、一部の児童には、届いていないことを意味しているように感じます。時代が異なると学校行事に対する子供たちの関わりやねらいや意義が異なってくることは理解出来ます。マラソンという行事だから、一人になれない児童が出てくる事も理解できます。また、数人で励まし合うことで登り坂を走りきることが出来たのだというふうに考えることもできます。私の懸念が懸念であればうれしいのですが。もちろん、そんな中でも文字どおり黙々とただひたすら走り切った児童もたくさんいたことを付け加えたいと思います。順位でもなく、タイムでもなく、ただ黙々と走りきること。自分と向き合い、自分の弱さに、負けそうになる自分の気持ちに向き合い、最後までねばり続けた子供たちにも大きな拍手を送りたいと思いました。

また、その姿こそが、田口峠マラソンを行ってきた「第一義」ではないでしょうか。



季節感のずれ：今年の9月～10月に掛けての時期は、「秋晴れ」が少なく、さわやかな私たちの住む日本の秋にはほど遠いような天候が続きました。新聞の投書欄にも、長雨が続き、稲刈りが出来ずにいたところ、晴れ間を見て、泥だらけになりながら稲刈りをしたといった記事を目にしました。そうかと思えば、気温が上昇し10月半ば過ぎだというのに、27度を記録するなどいったいぜんたいどうなっているのかなと思うような天気ばかりでした。何か春と秋という季節が変化してきているように思えてなりません。

そんな中でも、今年の玄関前の紅葉は、とてもきれいです。朝夕の温度差にメリハリがつくと際立つ色合いになるといわれますがその通りだと思いました。学校だよりを刊行するタイミングが、ずれにずれてしまいました。申し訳ございませんでした。